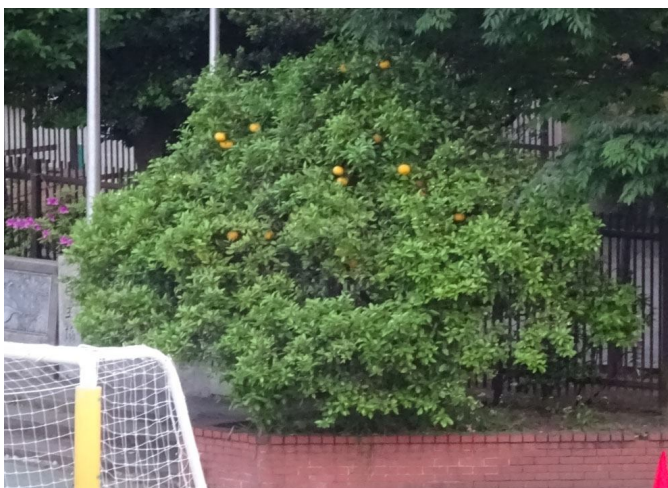


3 年生理科の「こん虫の成長」のポイントは、言うまでもなく「いかに昆虫の変化の様子を継続観察するか」ということである。一番いいのは、校庭に昆虫(主としてチョウ類)の食草や樹木があり、自然に近い状態での成長を観察することだろう。しかし、天候や授業の関係で、必ずしも屋外で観察できるとは限らない。また屋外の幼虫は、鳥類や肉食性のハチ類にやられる可能性も高い。また移動するので、個体識別も困難である。やはり屋内で飼育するのが良い。



3 年生の教室(オープンスペース)の入口には、「アゲハの成長観察コーナー」を設けてある。ワゴンに載っているため、授業で使う時は容易に移動もできる。



前回 3 年生の理科を担当した時は、校庭の国旗掲揚ポール近くの近くにある、大きなナツミカンの樹の葉を利

用していた。この樹は、6 年生の光合成の学習にも役立つ。葉に黒画用紙の型紙を貼っておくと、ヨウ素でんぷん反応で、青写真のように模様が残るのだ。



これは 6 年生と実験をしたミカンの葉である。黒い画用紙を貼った場所だけ、ヨウ素でんぷん反応が現れず、「パックマン」の模様が残っている。

アゲハ類の幼虫の餌としてミカン類を利用する場合は、枝ごと切って、水に挿しておくことになる。大型の三角フラスコが安定して良い。しかし、ミカンの葉は意外としおれるのがはやく、2 日に一度は葉を交換する必要があった。土日ははさむと、葉が枯れていて幼虫が弱ってしまうこともしばしばだった。



ところが今年は、思いがけずすばらしい「飼育場所」が提供された。3 年生の子どもの一人が「アゲハが卵をたくさん産んだので、学校に持ってきます」という。しかも、かんきつ類の鉢植えも寄付してくれるという。翌日持参してくれたのが、この鉢植えだ。レモンの若木だという。種子から自分で育てたというからすばらしい。こうして、「何の苦も無く」「アゲハの生きた餌」と「生きたアゲハの卵」を入手できた。